

# たより



～伊勢市教育研究所の活動を振り返って～



## ご理解、ご協力 ありがとうございます

早いもので、平成 24 年度もあとわずかとなりました。一年間を無事に終えることができ、皆様のご理解とご協力のおかげと感謝しております。ありがとうございました。

さて、伊勢市教育研究所では、来年度の事業を計画するにあたり、この一年間の活動を振り返りました。

委託研究では、小学校 4 校・中学校 2 校・幼稚園 1 園に研究協力校としてお力をかしていただきました。教科・領域だけでなく情報教育という側面からも研究を進めていただきました。教育研究所では、急速に変化する教育情勢の中、子ども達の学力向上に向け「よくわかる楽しい授業」を試行錯誤してきましたが、このことは私たち教師の終わりなき挑戦であり、工夫し続ける先生方の姿こそが意義深いことだと感じる一年でした。ご協力ありがとうございました。来年度も、情報教育を含め今日的課題の研究を進めていきたいと考えています。

また、委員の先生方を中心に、社会科副読本「わたしたちの伊勢市」と歴史教材「わたしたちのまち伊勢」を作成することができました。来年度も、副読本・歴史教材ともに改訂をし、さらによりよきものに仕上げていきたいと思えます。情報教育につきましても、タブレット PC の活用等、先進的な研究を積み重ねていきたいと考えています。

研修講座では、今年度 26 本の講座を開催いたしました。特別支援教育や保護者対応等、喫緊の課題をとりあげた講座は、たくさんの先生方にご参加いただきました。また、講師の先生が実際に授業を行う師範授業の講座は、大変ニーズの高いものでした。この成果を

活かし、来年度も師範授業や参加型の講座を多く開催する予定です。また、学校経営・学級経営等、組織づくりや集団づくりについての講座も予定しています。

### (別添資料参照)

スマイルいせでは、教育コンサルタントや臨床心理士による教育相談を行いました。相談内容は多岐にわたり、友人関係や不登校等の学校生活に関するものだけでなく、親子関係やしつけ等家庭生活に関するものまであります。また、カウンセリングの件数は年々増え続けています。来年度は、時間枠を増やして何とか対応したいと考えています。

教育支援センターNESTでは、5人の指導員や研修員、支援員が中心になり、子ども達の自立を支援してきました。一人ひとりの心を丁寧に支えながら、学校復帰を促してきました。その結果、7割～8割の子ども達が部分登校や学校復帰を果たすことができました。中には、完全復帰をした子もいます。少しずつ胸をはって歩き始める子ども達の姿は、たのもしくもあり、時には私たちに元気をくれました。来年度は、各学校との連携をさらに強化し、不登校ゼロを目指して活動の充実を図りたいと考えています。

以上のように、今年度の成果の部分はさらに充実させながら、課題となった部分は改善しながら、来年度の計画をしていきたいと考えています。来年度も、伊勢市教育研究所の活動に、ご理解・ご協力よろしくお願い申し上げます。



# デジタル教科書 全小中学校に導入！



もうすでに各小中学校に届いているかと思いますが、来年度からの授業に向け、デジタル教科書を導入しました。デジタル教科書の一斉導入は、三重県下でも四日市市について二番目となります。

デジタル教科書は、小学校には国語と算数の2教科、中学校には英語と数学と国語の3教科を導入しました。子ども達の興味関心や集中力を高めることにより、学習意欲が向上し学力の向上が図れると期待をしています。また、デジタル教科書には、ワークシートなどの教材だけでなく関連資料が豊富です。授業準備の効率化を図ることができるため、その分子ども達と向き合う時間を確保することもできます。ぜひ、積極的なご活用をお願いいたします。

また、デジタル教科書と併せて電子黒板も導入しました。これまでのものより大きい方がよいという先生方の要望を取り入れました。児童生徒数やフロア数に合わせて配備したため、全小中学校には導入できませんでしたが、いずれ各フロアー1台は配備したいと考えています。

さらに、今年度に引き続きICT活用活性化支援員も配置していきたいと考えています。今年度は要望のあった学校を中心に配置しましたが、来年度は配置の仕方についても考えていきたいと思ひます。

伊勢市の情報教育環境等については、文部科学省の調査等にも表れていますが、概ね全国平均程度で、まだまだ進んだものではありません。先生方に積極的に活用していただいた上で成果と課題を明確にし、子ども達の将来を見据えて情報教育の環境整備を進めていきたいと考えています。

伊勢市教育研究所では、各校1名の代表からなる情報教育推進委員会で話し合ったことや情報教育研究会での研究成果を大切にしながら整備の方向を考えています。委員会や研究会等を通して、たくさんの先生方の声を届けていただけたらと思ひます。

## 授業におけるICT機器の効果的な活用 そのⅠ

大湊小学校

6年生の子ども達が、算数「拡大図と縮図」の単元を学習しています。電子黒板を使って台形を拡大します。縦や横にひっぱったりして自由に大きくしていきます。目の前で大きくなる様子を見ていると、いろいろなパターンがあることがわかります。

続いて、自分の考えを書画カメラと電子黒板を使って説明する子ども達。機器にずいぶん慣れている感じです。聞いている子ども達は、大きく映し出されたプリントに集中しています。どこを説明しているのか、何を言おうとしているのかがよくわかるので、自分の考えと比較しながら聞くことができます。

まとめは先生が登場。しっかり集中し、説明に何度もうなずく子ども達。以前だと、「辺が2倍になって、角度は・・・」などと時間をかけて説明したのですが・・・。  
ICT機器の効果的な活用で理解が深まる授業でした。



## 授業におけるICT機器の効果的な活用 そのⅡ

北浜中学校

Good afternoon! 英語の挨拶で授業がはじまりました。スクリーンに映し出された英文をスラスラと言う生徒達。比較級や最上級など難しい英文もスラスラ。全員の瞳がスクリーンに集中しています。生徒達の様子からは、日常的にICT機器が活用されていることが感じられます。

電子ペンとホワイトボードを使っての活動のはじまりです。クイズ番組「アタック25」の形式で、4チームに分かれて質問に答えます。既習の学習内容が問題として出され、それぞれのグループで話し合って答えます。



驚いたのは、他教科の内容を織り込んだ問題がたくさん準備されていたこと。生徒達は、社会や理科の教科書で答えを見つけ、英語で何とか答えます。英会話の練習ではなく、英語を使いたくなるような必然の場を見事に作り上げた授業で、意欲的に活動する生徒達の姿が心に残りました。